

10年後の農業 意見交換

農地利用「地域計画」策定へ茅野市

米沢、金沢で進捗状況説明会

10年後の農地利用の在り方を示す「地域計画」の策定に向け、茅野市と市農業委員会

は17日、米沢、金沢両地区で農地所有者や耕作者を対象に進捗状況の説明会を開いた。米沢地区では約50人が参加し

た。ほ場整備を実施した農地を対象に現状と10年後の農業や耕作の担い手の見直しなどについて参加者と意見を交わした。地域計画は、農業経営基盤強化促進法の改正に基づき、

国が全国の自治体に策定を求めている。将来の地域の農地の在り方を農地所有者や耕作者らの意向を反映してまとめる。米沢地区の説明会では、ブランド化に成功した「米沢米(コシヒカリ)」の生産を地域



地域計画の「目標地図」の現状を確認する参加者

の主力農家が担うとともに、農地の集約化を進め、農作業の効率化を図るスマート農業も導入していくとした計画案

が示された。地球温暖化を背景に地区内が栽培適地の一つとなる可能性があるリンゴやワイン用ブドウなどの果樹、花や野菜の栽培方法も研究していく。地域として守るべき農地は約1000筆とした。鹿やイノシシの防止柵の設置や捕獲人材の確保育成といった鳥獣被害対策も盛り

込んだ。同地区ではこれまでに、市が農地所有者を対象に今後の農地利用に関するアンケート調査を実施。地域として守る農地の10年後の予定耕作者を1筆ごと記す「目標地図」は地区内の主力農家との協議を重ねて骨格を固めた。今後、住民の意見を踏まえて目標地図に修正を加え、来年2月の公告を経て同3月には最初の地域計画をまとめる。市内ではちの、中大塩両地区を除く8地区で計画作りが進んでいる。(野村知秀)